

## はじめに

四條 知恵

広島平和研究所は、研究成果を広く市民のみなさまに伝えるため、戦争や平和にかかわる諸問題をテーマに、連続市民講座や国際シンポジウム、研究フォーラムなどを継続して開催してきました。また、二〇一四年度より、これらの内容を分かりやすく伝え、現代世界における平和構築への問題提起とするため、この小冊子シリーズ「広島平和研究所ブックレット」を刊行しております。

第一〇巻である本書『核戦争の危機と被爆地』は、二〇二三年度にオンラインで行われた同タイトルのシンポジウム「核戦争の危機と被爆地——G7広島サミットを踏まえて」(二〇二三年二月一〇日開催)、連続市民講座「広島からウクライナ戦争を考える」(二〇二三

年一〇月二〇日から一月二三日まで配信)を中心に、一部二〇二二年度に行われた連続市民講座「平和文化を育むために」(二〇二二年一月一八日から二月二〇日まで配信)の報告・講演も含め、報告者・講演者に改めて執筆していただいた八つの原稿を収録しています。

第I部は、「核戦争の危機と被爆地——G7広島サミットを踏まえて」をテーマとして、「すべてのものにとつて安全が損なわれない」との原則——広島ビジョン二〇二三再考」(第1章 石田淳)、「ウクライナ戦争と国際平和秩序の行方」(第2章 吉川元)、「被爆国」と「被爆地」——サミット報道から見えてきたもの」(第3章 田中美千子)の三編を収録し、刻々と変化する国際情勢やサミット前後の議論も踏まえながら、広島と長崎、そして日本と世界が、こうした国際政治の変化や核戦争の危機にどのように取り組むべきかを改めて考えています。

第II部には、「広島からウクライナ戦争を考える」というテーマで、「核兵器をめぐる歴史の概観——マンハッタン計画からウクライナ戦争まで」(第4章 山田康博)、「ロシア・プーチン大統領のウクライナ戦争の論理」(第5章 吉川元)、「ウクライナにおける戦争と原子力施設への攻撃——冷戦の延長戦、あるいはリターンマッチか?」(第6章 友次晋介)、「ロシアのウクライナ侵攻とエネルギー」(第7章 沖村理史)の四編を収録しています。長引くウ

クライナ戦争は、国際社会にどのような変化をもたらしたのでしょうか。各分野の専門家が、ウクライナ戦争と核をめぐる問題を取り上げ、分かりやすく解説しています。

また、第Ⅲ部には、昨年度に続き、「平和文化を育むために」というテーマで、「知られざるフィリピン残留日本兵——一九五五年一月・ルソン島ソルソゴンの悲劇」(第8章 永井均)を収録しました。

本書が、本書を手にとっていただいみなさまに核戦争の危機と被爆地、そして平和にかかわる諸問題について、より深く考えるきっかけとなることを願っております。